

アフターウェブマガジンについて

・同ウェブマガジンは、現在(株)東海釣りガイドが発行している「月刊東海釣りガイド」の続編ウェブ版となります。ここに記載されている全ての内容において、弊社が著作権を所有しております。

当然の事ながら、これらが無断で転載、流用、共有する事は法律で禁じられております。その旨、良くご理解を頂きご利用下さい。

記事内には必要とされる場所に、ハイパーリンクを埋め込んであります。クリックする事で問い合わせ、公式サイト、動画サイト(一般外部サイト)への接続、または発信が行われます。不要の場合、それらをクリックしないよう御願ひ申し上げます。

株式会社東海釣りガイド

連載

奥深い三重の釣りをより掘り下げて！ 三重県オールジャンル 釣り探索

#34 甲賀漁港小突堤でウキフカセ釣り

三橋重晴（若潮クラブ）

9月に入り少しずつではありませんが、日中の暑さも和らぎ、多少は過ごしやすくなりました。

これで、ようやく釣行できると安心しましたが、せつかくの休日はまたしても悪天候のスパイラルと重なり、釣行を断念する日が続いています。

そんな中、仕事が定時より早い時間で終了したので、磯のブダイ釣りで使用するホンダワラ系の海藻が漂着していないかと、甲賀漁港近くにある海岸へ様子見を兼ねて出かけました。

今年は数は少ないですが、漂流&漂着している光景を確認できました。秋も深まり天候が落ち着けば、これでブダイ釣りにも即釣行できそうです。

状況確認も終わり、その合間に甲賀漁港へ探索を行ったところで、思いがけない光景を目にしました。東堤防の付け根前にある船溜まりに、40〜45cm位までの良型クロダイが、単発から3匹という群れが海底にあるエサを求め、周囲を回遊する光景に遭遇。

予想外の光景を見てしまっただけでもたつてもおらず、すぐに当地への釣行を予定しますが、休日はことごとく悪天候に遭遇し足踏

み状態が続きました。

ですが、9月も後半に差し掛かったところで、天候は曇りですが、休日と重なりようやく釣行できる日となりました。

呪われた 悪天候の連続

高ぶる気持ちを抑え、早速当地へ出かけました。夕まずめの満潮に照準を合わせ、午後3時過ぎに現地へ到着。海の状況を確認すると、台風からのウネリが入っています。

前回、本命の回遊を目撃した船溜まりの堤防は、高さは東堤より一段低くなっているため、少してウネリがあると、返し波が乗り越えてきます。

到着と同時に、しばらく波の状況を確認していましたが、堤防を乗り越えてくるほどの高さはなかったため、本命を確認した場所へ釣座を構えました。

当日のマキエは、エサ取りが一番多い時期なので、あえてオキアミは入れず、チヌグルメ1袋とパン粉1kgを配合したものを使用。サシエもコーンのみ使用。

仕掛けはサオ1・7号5m、



▲小突堤でチャレンジしましたが...

リール3000番、ラインはポナンザ・ナノテック磯2・5号。そこへウキB、ハリスはナノテック海ハリス1・7号を2ヒロ。ハリスは、伊勢尼9号を使用しました。

さらに、ロッドにはロッドメソテ、ラインにはスーパールコート、ライン&ハリスの結束部分とチモトの結び部分等にはノットガードVをスプレーします。台風のウネリにより、海上には適度な波気と濁りが入っています。まずは、仕掛けをセットする前に、サオ2本分沖へ多めにマキエを打ち、ポイントを作ります。

仕掛けがセットできたところで、タナ2ヒロからスタート。狙うポイントが船溜まりなので、潮は流れず池でサオを出している感覚。

このポイントも、フグのエサ取りが大量にいる海域です。釣り開始時は、サシエは取られず、きれいに残ってきました。早くも、本命がマキエに集まってきているのでは？と期待しましたが、それも束の間です。3個ではハリに残らず瞬時に取られるので、次は4個刺して様子を見ますが、こちらもウキに変化が無いまま取られ、ハリに残りません。

さらに、追い打ちをかけるように、時間の経過とともにウネリも少しずつ高くなり始め、返し波が乗り越えるようになってきました。エサ取りが集まり、後は本命の活性が高まり、エサ取りを蹴散らしながらヒットというパターンを期待していましたが、安全を考慮し、後ろ髪を引かれる思いでポイント移動です。

この海況なら、東堤入口にある小突堤に入り狙うのがベストです。通常は、この小突堤でサオを出す釣り人は、ほとんどいないのですが、当日に限ってウキフカセ釣りの先客が先端に。

仕方ないので、ウネリを気にせず安全にサオが出せる場所となる堤防付け根部分へ移動。この場所は、海中に入っている船の係留ロープの向きを、気にしながらのサオ出しとなりますが、当日のようにウネリが入り、船溜まり海域全域へ濁りが入れば、水深が浅いこのポイントでも本命がエサを求め、回遊してくるポイントです。

ここでも、タナ2ヒロからスタート。このポイントでは、開始早々からエサ取りの活性は高く、ウキに変化が無いまま、サシエは瞬時に取られます。

厳しい状況のなか、黙々と打ち返しを続けますが、これといった状況変化は無し。当日は曇り空での釣行でしたが、「秋のつるべ落とし」という諺通り、午後4時半を過ぎるとあつという間に周囲が薄暗くなってきました。

残念ではありますが、本命不発で午後5時前に納竿。釣座に散乱したマキエを海水で洗い流し、終了となりました。

この釣行から数日後、再度当地へ。午後2時過ぎに現地へ到着。今回は到着と同時に、船溜まりのポイントを確認すると、またしても台風のウネリは入っています。

さらに、高い返し波が堤防を乗り越えています。

前回、入れなかった小突堤を見ると、先客の姿はありません。今回は小突堤の先端正面向きで初チャレンジ。

このポイントでも、海況を見ると良い感じで適度な濁りが入っています。このポイントの水深は、堤防際からサオ1本分までは2ヒロ弱と遠浅ですが、約15m沖一帯は船の航路筋で、すり鉢状のかけ上がりになっており、4ヒロ弱（満潮時）の水深があります。

まずは、その周辺にマキエを打ち、ポイントを作っていきます。潮流は、緩やかに左からまらずは、タナ3ヒロからスタート。このポイントでも、釣り開始時はサシエも綺麗に残って上がってきましたが、時間の経過とともに瞬殺でサシエが取られ、すぐにフグ地獄となりました。

それでも負けず、少しでもサシエが残りそうなポイントをと、180度方向を探りながら、根気良く黙々と打ち返しを続けますが、サシエは残りません。

あつという間に時間だけが経過し、あつという間に午後5時

です。今回も不発の連敗になりました。

今後の見通しですが、今年も黒潮の影響を受け、海水温が高い状況が続くそうなので、本誌の発売される頃から年内まで、ウキフカセ釣りで狙えそうです。北西風が吹き始める時期なので、当方向からの風が吹く時は、風裏となる中堤先端右側から内側で、サオを出すと良いでしょう。東堤防は、北西方向からの風には弱いですが、海底の地形は磯場となっており、先端周辺から沖向き右側と、数多くのポイントがあります。

小突堤は、先に紹介した通り、船の航路筋となつていきます。釣りに夢中となり、船の航行に気が付かずスクリーンに、ラインを巻き込む等の大きなトラブルにならないよう、常に船の航行には気を付けるように。

また、駐車の際は漁業関係者の迷惑にならないように駐車してください。ラインのイトクズやエサの空パッケージに飲食を終えた空袋等のゴミは、その場に放置せず必ず持ち帰り、マナーを守りながら釣りを楽しんでください。